

秋田県歯科技工士会生涯研修会【基本】 本荘由利支部創立20周年記念講演会

共催：秋田県歯科技工士会中央支部



日 時：令和元年 8月25日(日) 10時～16時

会 場：秋田県青少年交流センター ユースパル
(秋田市寺内神屋敷3-1)

受講料：会員 1,000円 会員外 10,000円 ※昼食代込

講 師

奥森 健史先生（日本歯科技工士会認定講師）

〈教養課程〉『匠とデジタル…どう、融合すべきか？』

〈専門課程〉『審美エリアも含めたバーシャルデンチャーの対応と着目点』

●抄録

審美・インプラント時代も一時代を築き、その日常臨床において上下顎欠損歯列への対応で、バーシャルデンチャーが選択された場合、患者可撤性装置という“限られた条件下”で、どれだけのポテンシャルを発揮できるのかが常日頃、筆者が頭を悩ませる部分である。

進化したと紹介される各マテリアルに対し、私たちテクニシャンはそのリスクとベネフィットを見極める知識も必要となる。口腔内に装着された時点からの経年変化を想定しながら対応することはとても重要となる。例えるならば、上下顎がしっかりと嵌合している少数歯欠損の場合なら、比較的ファイナル補綴装置のイメージが想像するに難しくないが、多数歯欠損で“すれ違い咬合”など、ましてやそれが前歯部にまで及ぶ連続欠損などの場合、“何から手を付ければよいのかイメージが沸かない”というラボサイドの意見もよく耳にする。特に咬合支持を失った上下顎の欠損歯列ともなれば果たしてデザインされた補綴装置でクリアーカーできるのか。ラボサイドとしてまず、欠損補綴の目的としての歯列弓の保全、審美性の改善、機能回復、残存組織の保全というキーワードを考慮し構造をデザインするが、それに対し各マテリアルを組み合せ立体化していくという“マテリアルセレクション”も重要な部分である。何度も口腔内にトライし両側歯列にまたがる比較的大きな補綴装置を高いクオリティーに構築していくにはチェアーサイドとの綿密なディスカッションとそれに準じたステップが必要になる。本講演では、ラボワークからの視点で、一つのケースを、ステップごとに着目点を紹介したい。前述したように大きな補綴装置となるバーシャルデンチャーは金属・高分子材料、支台装置〔サベイドクラウン〕も含めばセラミックスと多くの異なる材料が混在し立体化させる装置である。総合的なラボサイドの判断が必要であると考える。

参 加 申 込 書 (8/17(土) 締切)

勤務先名	参加者名 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 歯科技工士 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士
住所	
電話 FAX	

申込先：秋田県歯科技工士会 電話・FAX **018-892-2447** / E-mail akisigi@ceres.ocn.ne.jp